

民俗学と分子遺伝学の融合による 山村の歴史・文化把握と再産業化への新たな視座の創出

(教授・藤井弘章, hiroaki.fujii@lac.kindai.ac.jp)

Research Area

これまでの民俗学的研究によって、山の民は地域の自然環境を熟知したうえで山林資源の活用をおこなってきたことが明らかになっている。

1. 山の民の生活を支える作物の分子遺伝学的評価を行う。
2. 民俗学的知見と分子遺伝学的知見から、山の民による山林資源活用の形成過程を明らかにする。
3. 「山」と「里」の文化を隔てる要因を明らかにする。
4. 持続可能な山村経済圏の形成を志向する。

新しい視座の獲得
いつ頃何が起こったのかを
より深く考察できる。

協働・融合

民俗学的視点
ひとの暮らし・習俗
産業と生活基盤

分子遺伝学的視点
分子時計を利用した
時間の測定

Recent Activities

- 高野山麓の榎(カヤノキ)をめぐる民俗. 民俗文化 35:1-114, 2023
- 製蠟産業の大規模導入にともなって生じた栽培ハゼノキ(*Toxicodendron succedaneum* (L.) Kuntze)から近縁野生種ヤマハゼ *Toxicodendron sylvestri* (Siebold et Zucc.) Kuntze)への遺伝的浸潤. 作物研究 68:15-23, 2023